

米ドル建て新興国債券と新興国通貨の動向

【7月の米ドル建て新興国債券は上昇】

● 7月の米ドル建て新興国債券は米ドルベースで約3.7%上昇しました。

米国の債券価格が上昇（金利低下）したことが、米ドル建て新興国債券の月次リターンにプラスとなりました。さらに、米ドル建て新興国債券は、比較的高い利回りが見込めるとの期待などから買われました。国別では、外貨準備に不安のあるトルコなどが下落したものの、メキシコやサウジアラビアなどが上昇しました。

【7月はブラジルレアルが上昇】

● 7月の為替レートの騰落率をみると、ブラジルレアル、メキシコペソが上昇しました。ブラジルレアルは、ブラジル国内の新型コロナウイルス感染者の拡大が嫌気されて7月中旬にかけて売られました。しかし、その後はワクチン開発への期待などから反発したことに加え、7月下旬にブラジル政府が第1段階の税制改革案を議会に提出したことなども好感され、上昇しました。月末にかけて、再び、新型コロナウイルス感染者の拡大を背景に売られたものの、前月対比で上昇して終わりました。

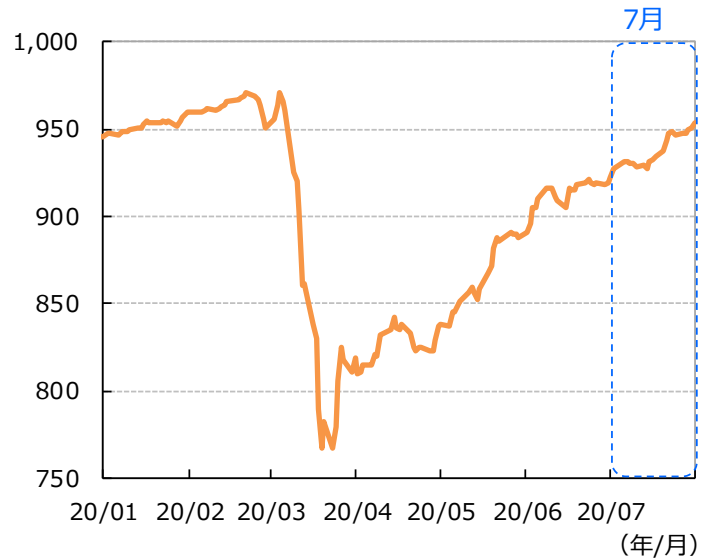
一方で、ロシアルーブル、アルゼンチンペソ、トルコリラなどが下落しました。ロシアルーブルは、ロシアの中央銀行が7月24日に政策金利を引き下げたことなどから下落しました。ロシアの政策金利の引き下げは3会合連続となり、今後も継続的に利下げが行われるとみられることから下落しました。アルゼンチンペソは、政府と債権団の債務再編交渉が続く中、新型コロナウイルスの感染拡大などもあり、下落しました。

出所：JPモルガン社、Bloombergのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成
米ドル建て新興国債券インデックスは1993年12月末を100として算出されています。

当資料で使用するインデックスデータについては最終ページの【当資料で使用するデータについて】をご確認ください。

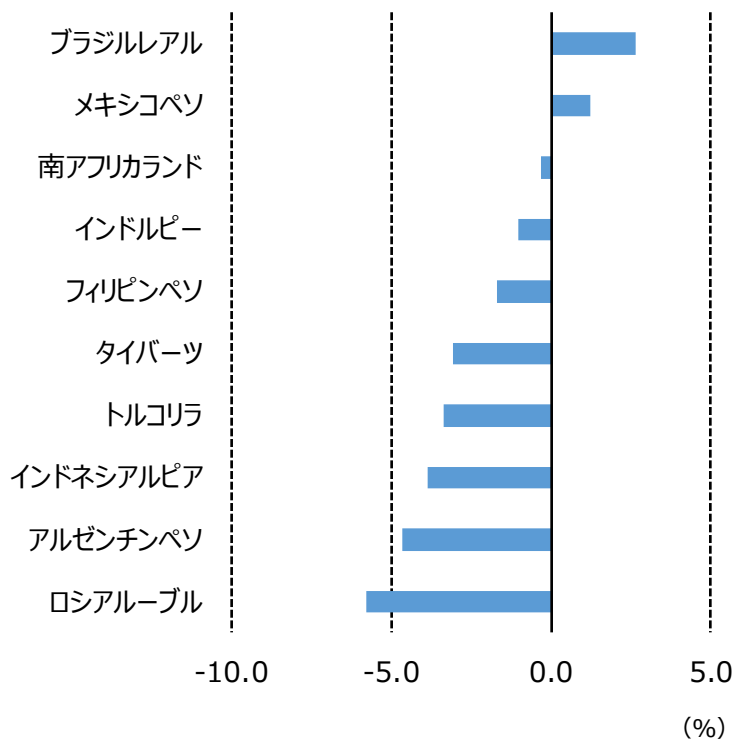
記載のデータは過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

米ドル建て新興国債券インデックスの推移（日次）



期間：2020年1月2日～2020年7月31日（日次）

7月の主要新興国通貨騰落率（対円）



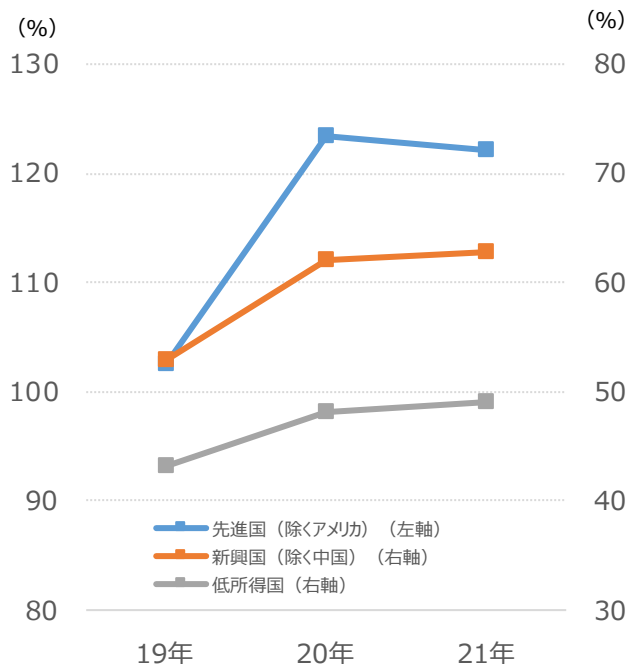
今月の注目点：公的債務の対GDP比は21年に安定化、6月以降は新興国債券に資金流入

【公的債務の対GDP比は21年に安定化の可能性】

●IMF（国際通貨基金）は2020年7月に、公的債務の対GDP比が2021年に安定化するとの予測を示しました。一方で、今後、コロナショックの影響により、各国経済は潜在成長力を下回って推移すると予測しています。そのため、物価上昇圧力は低い状態で推移し、各国の中央銀行が金利を引き上げる必要性も低いままとみられます。

●IMFでは、上記のシナリオをもとに、2021年に景気力強い回復を予測する一方で、2021年以降も低金利が継続する可能性がある、としています。こうしたIMFのベースライン予測を基にすると、右図にあるように、**政府債務の対GDP比は先進国、新興国（米国と中国を除く）ともに2021年には安定化するとみられます。**

公的債務（対GDP比）のIMF予測



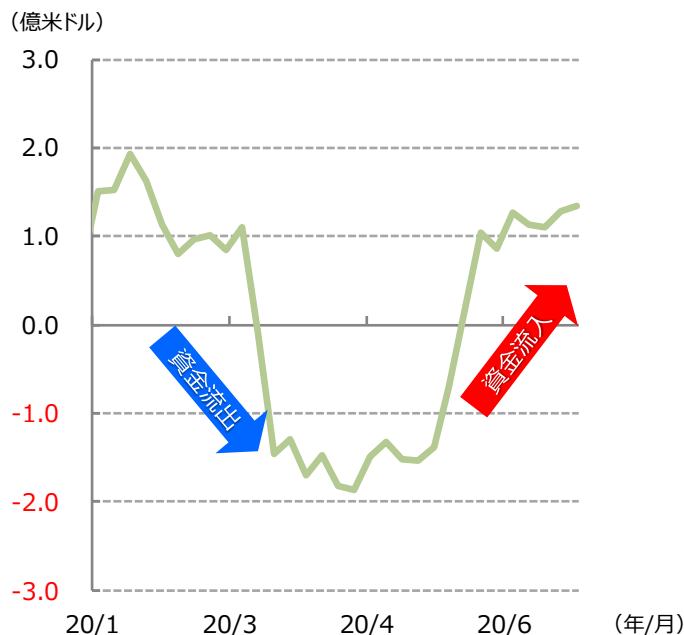
購買力平価ベースのGDPで加重平均した値をIMFが推計期間：2019年～2021年

【高利回り追求から6月以降は新興国債券に資金流入】

●現在、米国市場では高利回りを追求する動きが広がっているようです。2020年2月下旬から3月にかけてコロナショックが起きました。そのため、3月以降、リスクのある米ドル建て新興国債券から投資資金を引き揚げようとする動きが強まりました。しかし、コロナショック後に世界の中央銀行が金利を引き下げの中で、相対的に高利回りの期待できる米ドル建て新興国債券の魅力が高まったことで、資金が流入しているようです。

●実際に、右図にある米国の主要な新興国債券ETF（上場投資信託）の資金流出入の動向をみると、**2020年3月に資金流出となったものの、6月以降は資金流入に転じていることがわかります。**

米国の主要な新興国債券ETFの資金フローの推移



期間：2020年1月1日～2020年7月31日（週次）
数値は13週移動平均

出所：IMF、Bloombergのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成

当資料で使用するインデックスデータについては最終ページの【当資料で使用するデータについて】をご確認ください。

記載のデータは過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

投資信託のお申込みに際してのご留意事項

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券、投資信託証券など値動きのある有価証券（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。これら運用による損益は全て投資者に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）をよくお読みいただき、ご自身でご判断ください。

ご留意いただきたい事項

当資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成したご参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。当資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したのですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

当資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。当資料は作成時点での見解であり、今後予告なく変更する場合があります。ご投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断ください。

投資信託に係る費用等について

- ◇投資者が直接的に負担する費用
 - 購入時手数料： 上限 4.40%(税込)
 - 信託財産留保額： 上限 解約金額・償還金額の0.600% または1口（設定時1口1万円）あたり250円
 - ◇投資者が信託財産で間接的に負担する費用
 - 運用管理費用（信託報酬）： 上限 年 2.035%(税込)
 - その他の費用・手数料： 上記以外に保有期間に応じてご負担いただく費用があります。
- 投資信託証券を組み入れる場合には、間接的にご負担いただく費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの間接的な費用のご負担額に関しましては、その時々各投資信託証券の組入比率や取引内容等により金額が変動しますので、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳細につきましては必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」でご確認ください。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、T & Dアセットマネジメントが運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容をよくお読みください。

照会先

T&Dアセットマネジメント株式会社

電話番号： 03-6722-4810(受付時間は営業日の午前9時～午後5時)

インターネットホームページ： <https://www.tdasset.co.jp/>

特別な記載がない限り、下記のインデックス(トータルリターン、最終利回り)を使用しています。

- 米ドル建て新興国債券インデックス:JPモルガンEMBIグローバル・ディバーシファイド・インデックス
指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利はJPモルガン社に帰属しております。JPモルガン社は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。JPモルガン社は指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。
- 当資料中に引用した各インデックス(指数)の商標、著作権、知的財産権およびその他一切の権利は各インデックスの算出元に帰属します。また各インデックスの算出元は、インデックスの内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。